

(別紙4) 平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871200218		
法人名	医療法人永慈会		
事業所名	ひたちの森スマイルハウス太田		
所在地	茨城県常陸太田市磯部町90-1		
自己評価作成日	平成23年5月16日	評価結果市町村受理日	平成23年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871200218&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成23年6月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム理念「ご本人の持っている力を最大限に発揮して、良い状態を一日でも長く保ち最後まで生きる喜びを持って生きられるように、日常生活介護を通して安心と尊厳のある生活を支援していきます。」を基本とし、入居者様一人一人が自分らしい生活を送ることが出来るように、施設内でのレクリエーション活動を始め、お花見、りんご狩り、花壇の手入れ、野菜作りや、施設外ではひたちの森グループでの運動会・文化祭・夏祭り・お餅つき等、さまざまなものを企画運営しこれらに参加、入居者様はもとよりご家族様にも満足していただけるように日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年から運営されているホームで、開設当初から地域住民との交流に努力していたこともあり今回の震災に際しては地区の方々の好意により地区の集会所をホーム利用者の避難場所として提供していただき、自家発電により夜間も利用者が不安にならないよう照明を確保してくれる等の協力が得られた。以後ますます地域の一員としての交流が深まっている。
管理者・職員は認知症ケアについて高い専門性を有しており、利用者の豊かな生活を目指して、利用者と一緒に季節ごとの壁飾りを作成したり、介助用エプロンを手作りする等ゆとりあるケアを実践している。
利用者は近所への散歩や外気浴、気分転換も兼ねたイベントとしての外出等を通して地域の方々や頻繁にホームを訪れる友人・知人・家族等と親しく交流しながら、それぞれが役割をもって生きがいのある日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、各ユニット出入口に掲げている。ご利用者・ご家族・職員で共有している。	地域に密着したサービス提供という法人理念を基にホーム独自の理念を作り、利用者が「生きる喜び」をもって、安心と尊厳のある生活が出来るよう、全職員が日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・小学校の運動会・お餅つき等企画参加して交流を図っている。	以前よりホームのイベント時にはチラシを配布して地域の方々に参加を呼びかけ地域との交流を心がけていた。今回の震災に際して地区の集会所をホーム利用者の避難場所に提供してもらおう等様々な協力が得られ、より地域との交流が深まり、地域からイベントの案内がきたり、地域の清掃にホームも参加する等地域の一員としての活動が活発になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議や中学生の総合学習の受入れ・高校生の職場実習等を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上への取り組み等の研修を一緒にやっている。	会議には利用者・家族・町内会長・民生委員等の地域の方々や市の担当者等が出席しており、地域の情報を提供していただいたり、ホームからの報告をして出席者からアドバイス等も頂いている。これにより会議後の研修会開催等が実現している。会議の結果は月1回の全体会議で全職員に報告しサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常陸太田市グループホーム協議会で市の職員との意見交換等をし、不明な点があれば市の担当者に相談している。	市内のグループホーム協議会を3ヶ月に1回程度開催しており、参加している市の担当職員とは常に率直な話し合いができています。また認定調査においては利用者の普段の生活を伝える等積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束その他の行動制限廃止マニュアル等を作成して居る。	定期的な外部研修を受講し、研修報告書を全職員に回覧して共有を図っており、拘束のないケアを実践している。2階の階段のドアは施錠してあるが、エレベーター、玄関のドアは施錠せずに職員の見守りの中で自由に出入りが出来るようになっている。	

茨城県 グループホームスマイルハウス太田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成23年2月8日(火)県民文化センター大ホールにて、「平成22年度茨城県権利擁護対策推進研修会」に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、円滑に対応できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一生懸命説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し対応しています。運営推進会議の際に外部にも公表していません。玄関に観覧所を設けています。	餅つき・夏祭り等に参加した家族と話し合う場を設け、積極的に意見や要望を聞いている。また面会時には利用者の日々の状況等を報告しながら意見や要望を積極的にきいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や毎日の仕事の中で意見や提案を聞いています。	日頃からユニット長へは何でも話しやすい雰囲気があり、職員の意見や要望は常に管理者に伝えられており、コピー機や掃除機の購入等が職員からの要望で実現している。職員の異動はなく、勤務表も職員の希望を取り入れて作成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう本部と話し合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー2級講座の研修参加の呼びかけや、国家試験対策の為の講習会参加など、勤務の調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸太田市グループホーム連絡協議会参加し、意見交換をしています。運営推進会議への参加していただき、勉強会に参加していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時アセスメントで聞き、計画書に反映されています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時アセスメントで聞き、計画書に反映されています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、今必要なサービスは何かを見極めフォーマル・インフォーマルなサービスの指導をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護を基本として、自立支援を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に共同で介護していく事を入所時に確認しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接等を積極的に受け入れ、外泊・外出等希望があれば受け入れています。	利用以前からの関係や日々の生活の中で作り上げた馴染みの関係を大切にしており、手紙やハガキのやり取り、家族の協力を得ながら行きつけの美容院の利用・知人を訪問する等の支援をしている。またホームには利用者の同級生や教え子等の知り合いが度々訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からコミュニケーションの仲介や、法人全体の行事等に積極的に参加しています。		

茨城県 グループホームスマイルハウス太田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談された場合や、市内で出会った時には積極的に話しかけ様子を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書に反映させています。	利用開始時の聞き取りや日々の関わりの中から利用者の意向や思いを把握し、それぞれの望む暮らしが出来るよう努めている。意思表示の困難な利用者については、利用者の言葉や表情を具体的に申し送りノートに記録し、毎日のミーティングや月1回の全体会議等で利用者本位の検討を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメントや、普段の生活の中で話を聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方、心身状態等は、毎朝のミーティング時に全員に把握してもらいます。有する力等の現状の把握については、法人の5つのテーマに沿って計画を作成し評価しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と共に、共同で介護していく事を入所時に確認しています。	利用者・家族の意向を踏まえて、外出支援などの暮らしを反映した丁寧で具体的な介護計画が作成されている。全職員が関わって定期的にモニタリングが実施されており、利用者の状態に応じて定期的・随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を作成し、計画書の目標に沿って記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の力を借りています。		

茨城県 グループホームスマイルハウス太田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の行事に参加したり参加を呼びかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の居宅療養管理指導や、定期的な受診・検査を実施しています。	利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医への継続受診は可能であるが、殆どの利用者が母体法人の医療機関を主治医としている。月2回の回診により全利用者の健康状態の把握ができており、緊急時にも適切な医療が受けられるようになっている。	母体法人の医療機関により利用者の健康管理は十分に行われているが、ホームにおいても全職員が利用者一人ひとりの受診状況を把握する為の受診記録作成等の検討を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のミーティングで変化のあった利用者は永井ひたちの森病院へFAXにて状態報告をし、病院の指示を待つ必要時は病院へ送迎しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況(状態)把握の為、職員は利用者を面会したりケースワーカーを通して入院時の状況(状態)を確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医に相談して家族・職員で話し合いをして決めています。	利用者の重度化に伴い、重度化対応指針は作成しており、契約時に十分な説明を行っているが、現在のところ病院・施設等の受け入れ先の支援が十分に行えることもあり看取りは実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えています。緊急時の対応マニュアルを整えてマニュアルに沿って対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や運営推進会議の際に町会長さんや地区の民生委員に協力を要請しています。	定期的な避難訓練の実施等と共に今回の災害を基に災害対策の見直しを行い、非常持ち出し用のバッグを備える等、具体的な新しい取り組みも出ている。また地域との協働等、積極的な取り組みも考えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や計画書に盛り込み実践しています。	年長者であることを意識した丁寧な言葉づかいを常に心がけ自尊心を傷つけないようにしている。面会簿はカード式にしており、綴りも利用者毎にまとめて個人情報として管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を基本として対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に自己決定を基本として対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、声掛け見守りをして対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る所は手伝っていただいています。	利用者一人ひとりが食事の準備・後片付け・食事開始の挨拶等、役割を担っており、一緒に食事を楽しむ様子がかがえた。食事用のエプロンも職員の手作りでお洒落で暖かな雰囲気を出しており、食事介助の職員の声かけも日頃の関わりの深さを思わせる自然で穏やかさがあつた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録に記入して確認したり、水分はコップやペットボトルで量を確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。声掛けや、介助見守り等を実施しています。		

茨城県 グループホームスマイルハウス太田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録、排泄チェック表を利用したりして排泄パターンを把握しトイレ誘導を実施しています。	全職員がそれぞれの排泄パターンを把握しており、声かけやリハビリパンツ、パット等を利用してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックや運動に気をつけて対応しています。主治医と相談し整腸剤・下剤等で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否する利用者には、対応する職員を代えて声かけを試みたり、小規模のお風呂に誘ったりして気分を変えられるように工夫して、できるだけ希望に沿った支援をしています。	希望によって何時でも入浴できるようにしており、回数や順番等は利用者の希望にあわせている。拒否のある利用者でも週2回の入浴は出来るように声かけ・気分を変える等の工夫をしている。日頃は入浴剤等で気分転換を図るなどしており、りんご湯等を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リラックスできるように運動やレクリエーションに気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬を管理し、顔写真を付けて利用者を間違えないように職員2人で服薬確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時のアセスメントの際や、普段の関わりの中で、趣好品、楽しみごとを確認しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各ユニットごとに外出の機会を作って提供しています。	天気の良い日には散歩に出かけるなどし、外気浴は常に行っている。必要に応じて買い物に出かけたり、月に1回は外食を楽しんだりしている。また各ユニット毎に初詣等月1回のイベントを計画して気分転換を図っている。	

茨城県 グループホームスマイルハウス太田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたりして支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を各ユニットに設置しています。手紙も依頼されたときには郵便配達時に送れるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾ったり、季節に合った飾りつけをしたりして、月々の行事の飾り付けをしています。	トイレ・浴室は機能低下した方にも配慮されており、利用者が動きやすい洗濯物干し場も各ユニット毎に整備されている。居間には季節の花を飾り、手作りの見やすいカレンダーを置く等しており、利用者が心地よく過ごせるようにとの職員の心配りが随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳を利用したり、廊下に椅子を置いたりして居場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いたいものを置けるように声掛けしています。	靴を脱いで寛げるようにカーペットを敷いた部屋やソファを置いて訪問者と居室で過ごせるよう配慮された部屋等、利用者それぞれの生活パターンを大切に工夫が見られた。また各居室には仏壇・家族の写真・鉢植えの花等こだわりの品々が置かれて、それぞれが安心して暮らせるようになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に洗面台があり、自分で洗面や歯磨き等が出来るようになっています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	法人の医療機関により、利用者の健康管理は十分に行われているが、ホームにおいても全職員が利用者一人ひとりの受診状況を把握する為の、受診記録作成等の検討が必要	利用者一人ひとりの健康状態を把握するために、受診記録を作成することが出来る	現在使用している受診ファイルを活用し、利用者一人ひとりの健康状態の把握を行えるように、受診記録を記入する	1ヶ月
2	26	利用者家族の意向を踏まえて、介護計画は作成されているが、内容を具体的に細かなサービス提供の支援に期待したい	サービス計画書を具体的に記載することで、職員が利用者の「望む暮らし」を理解し、支援することが出来る。	目標を具体化することで、サービス提供がより細かなものとなり、利用者の「望む暮らし」に近づけるように支援する	3ヶ月
3	11	ユニット会議→リーダー会議→全体会議と、毎月定期的に職員会議を開催しすべての職員の意見や提案を聞き機会を設け、施設のスキルアップを図る	職員一人ひとりの意見や提案を聞く事が出来る。	第1(金)ユニット会議 第2(金)ユニット長会議 第3(金)全体会議 の開催を実施し、情報の共有を図ることが出来るようになる。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。